

仙台高専なとりライブラリーカフェの改善

岡崎久美子^{*1}, 窪田 眞治^{*2}, 古内 孝明^{*1}, 柳生 穂高^{*2}, 本間 一平^{*3}, 塚田由佳里^{*4},
荒 孝二^{*5}, 坂本 香代^{*5}, 遊佐 梨江^{*5}

Improvement of Library Café at the College Library of NIT Sendai, Natori

Kumiko OKAZAKI, Shinji KUBOTA, Takaaki FURUUCHI, Hotaka YAGYU, Ippei HOMMA,
Yukari TSUKADA, Koji ARA, Kayo SAKAMOTO, and Rie YUSA

This paper describes how we made some improvement in effecting the fifth and sixth Sendai Kosen Natori Library Cafés (Library Cafés at Natori campus library of National Institute of Technology, Sendai College). We would like to continue to hold the present meeting in the future.

KEYWORDS: book introduction, community, reading promotion campaign

1. 本論の趣旨

本論は仙台高等専門学校（以下、仙台高専）名取キャンパス図書館が開催している仙台高専なとりライブラリーカフェ（以下、ライブラリーカフェ）の運営方法について検討するものである。本ライブラリーカフェは平成28年度に始め、平成30年度には3年目を迎えており、通算で第6回を数える。本論においては平成30年度の取組について振り返り、本行事の今後の継続可能性を検討する。

2. ライブラリーカフェの実施状況

2. 1 本行事の経緯

本行事は平成28年度に初めて開催した。以後、学生・教職員、および地域の市民を主な対象として、当該年度の高専祭の1日目に第1回を、2日目に第2回を図書館において実施している。

日本でも盛んに開催されるようになってきた各種のサイエンスカフェを参考にしているが、話題は理工系には限定せず実施している。参加者が気軽に参加できる形態を目指している。

実施に際しては、事前に図書館内に特設コーナーを設置し、学内外への周知をはかっている。また開催後には、当日配付資料等の展示、紹介された本の貸出を行っている。また、ライブラリーカフェを記録した動画を視聴できる専用の端末を館内に整備している。実施状況は岡崎他（2017）¹⁾と岡崎他（2018）²⁾に報告した。

2. 2 平成30年度の実施概要

平成30年度は、通算で第5回と第6回に相当する回を開催した。当日の参加者は合わせて約90名であった。以下に各回の実施概要と配付物を示す。

*1 総合工学科 N1 ユニット (N1 Unit, Dept. of General Engineering)

*2 総合工学科 N2 ユニット (N2 Unit, Dept. of General Engineering)

*3 総合工学科 N3 ユニット (N3 Unit, Dept. of General Engineering)

*4 総合工学科 N4 ユニット (N4 Unit, Dept. of General Engineering)

*5 総務課 (General Affairs Division)

平成30年度 第1回 仙台大専なとりライブラリーカフェ (通算第5回) 概要

日時:平成30年10月27日(土)(仙台大専 高専祭 第1日目) 11:00~12:00 (講演, 質疑等を含む)

場所:仙台大専名取キャンパス図書館 1階グループ学習エリア

講師:佐藤一志先生(仙台大専総合工学科 N3 ユニット)

演題:JAZZ ジャイアンツから始める JAZZ 入門

平成30年度 第2回 仙台大専なとりライブラリーカフェ (通算第6回) 概要

日時:平成30年10月28日(日)(仙台大専 高専祭 第2日目) 11:00~12:00 (講演, 質疑等を含む)

場所:仙台大専名取キャンパス図書館 1階グループ学習エリア

講師:野呂秀太先生(仙台大専総合工学科 N3 ユニット)

演題:JAXA でゴミ拾い

当日の配付物

- 1) 「仙台大専なとりライブラリーカフェ 概要」
- 2) 「本日紹介した曲」(第1日目)
- 3) 「平成30年度仙台大専なとりライブラリーカフェ アンケート」(記入用バインダーと鉛筆を添えている)
- 4) 「仙台大専名取キャンパス図書館利用案内」
- 5) お茶のペットボトル
- 6) 資料持ち帰り用封筒

配付物 1) は, ポスターのデザインを背景に, ライブラリーカフェの内容の紹介や取り上げる予定の本や CD を掲載したものである。また, 図書館の行事や利用の案内を掲載している。

配付物 2) は, 第1日目のみの配付であり, ライブラリーカフェで聴いた曲の一覧である^{注1)}。本資料のみライブラリーカフェの最中に予定の曲がすべて紹介されたタイミングで配付した。

2. 3 事前, 当日, および事後の会場とその周辺の状況

会場のライブラリーカフェ特設コーナーは, 例年どおり, 実施日の1か月ほど前に設置した。会場と

なる図書館1階に当日に紹介される予定の本と CD を展示し, 貸出をしないかわりにそれらの一覧を持ち帰れるようにした。

開催時期の会場ではいくつかの企画展示をしていた。例えば, 読書コンクールのコーナーでは, 学生が作成したレビューカードやポップカードと紹介された本を展示していた。

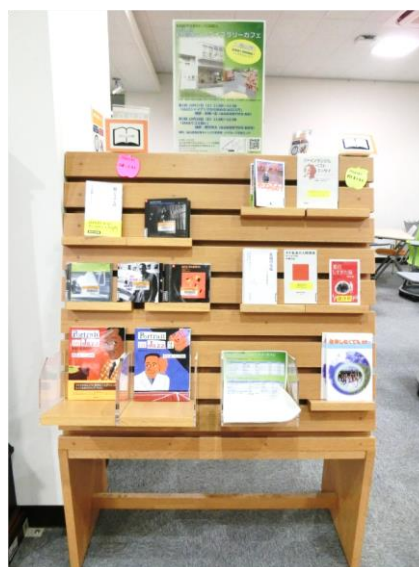


図1 ライブラリーカフェ特設コーナーの展示

当日は, ライブラリーカフェ開始前の時間帯に, 会場に音楽を流した。ライブラリーカフェの雰囲気醸成や開始のタイミングの周知に効果があった。

ライブラリーカフェはくつろいだ雰囲気で行進した。質疑の時間には多くの質問やコメントが寄せられ, 参加者が語りの内容に知的刺激を受け, 参加者の中にもっと知りたいという気持ちが湧き上がっていることが伝わってきた。ライブラリーカフェの終了後も意見交換は会場のあちらこちらで活発に続いた。



図2 ライブラリーカフェの様子

ライブラリーカフェの当日に名取キャンパス図書館が実施したその他の行事やサービスは以下のとおりである。

- 1) 読書コンクール表彰式
第2日目のライブラリーカフェに続けて実施した(本稿2.4.3参照)。
- 2) 図書館ツアー
第1日目のライブラリーカフェの終了後と第2日目の読書コンクール表彰式の終了後に、希望者を閉架書庫を含む全域へ案内し、利用の実際を体験してもらった。
- 3) 古本市
平成30年度は古本市を6~7月と10~11月の2度開催し、そのうち2度目の期間にライブラリーカフェの開催日を含むよう設定した。
- 4) 図書館公開
学外からの来館者に閲覧等のため終日自由に利用してもらい、希望者には図書の貸出や利用者登録を行った。学外者に必要と思われる案内をした。資料の大半は会場がある1階ではなく2階にあること、ふたつき飲み物が館内全域で飲めること、通常時も一般に公開されていることなどである。

2.4 平成30年度の取組

2.4.1 興味深い話題の提供(1)

平成30年度の各回の講師には参加者にとって興味深い話題を提供していただいた。

第1日目では過去の回とは異なった分野の話題が選ばれた。本行事は、前年度までは専門または専門にかかわる話題を提供してきたが、話題の範囲を拡大し、講師の自由な発想で、専門分野と直接かかわ

らない話題で話してもらう回を設けたいという提案が図書委員から出されていた。そして、平成30年度第1回の話題として、講師から、音楽についてではどうかという提案を受けた。

音楽を聴く機会をふんだんに取り入れるという語りの形態もまたライブラリーカフェ初の試みとなった。これはまさにラジオの音楽番組だという声が会場で聞かれた。

語りは多様な聴衆の期待に応えられるよう配慮された形で進められた。ジャズを初めて聴く人がつまづかずにアプローチするための方法と、ジャズの様々なジャンルを体系付けてたどるための方法の両方が扱われた。参加者は様々な本や曲に触れ、講師が音楽を楽しんだ軌跡を追体験することができた。

第1日目で紹介された資料は次のとおりである。

平成30年度第1回で紹介された本・CD

- ・『超ジャズ入門』 中山康樹, 集英社新書
- ・『ポートレート・イン・ジャズ 1』 和田誠・村上春樹, 新潮社
- ・『ポートレート・イン・ジャズ 2』 和田誠・村上春樹, 新潮社
- ・(CD)『Round About Midnight』 Miles Davis, ユニバーサルミュージック
- ・(CD)『Maiden Voyage』 Herbie Hancock, Blue Note
- ・(CD)『My Favorite Things』 John Coltrane, Jazz Images
- ・(CD)『Getz/Gilberto』 Stan Getz & Joao Gilberto, Jazz Images

講師の専門分野と一見関係のないように思われる話題も、専門の研究を深いところで支えていたり、発想を広げるのに役立っていたり、講師の魅力を高めたりするのに関与することがあろう。このような話題について話を伺う場の提供に、図書館が主催するライブラリーカフェは貢献できると考える。また、このような話題を提供してもらうことは、学生の学びに大きな影響力を持ち、高専に詳しくない学外者がときに抱く「高専の学びは専門に限定されている」などの誤ったイメージの払拭にも役立つことが期待される。

2.4.2 興味深いテーマの提供(2)

第2日目のテーマは聴衆にとって2つの視点から興味深いものとなった。

第一は、時の話題にヒントを得て講師の依頼を行

った点である。折しも平成30年は、JAXA（宇宙航空研究開発機構）のはやぶさ2プロジェクトが佳境を迎え、探査機の小惑星リュウグウへの到着が社会の関心を集めていた。そこで、JAXA から赴任した教員に話題提供を依頼した。初の試みであったが、幅広い層を引きつける結果となった。聴衆は地元の高専の研究が広い世界につながっている事実に触れて心をときめかせたり、図書館は現代の話題にも出会える場であると再認識したりしたと思われる。

第二は、本の紹介が講師自身の成長に重ねる形で行われた点である。講師が多様な分野に興味を示した少年期を経てJAXAでの研究に至った過程を知り、講師とJAXAに親近感を覚えた聴衆が多かったようである。ロールモデルに出会ったと感じた中学生もいたであろう。研究者の読書の過程を披露してもらうことも、広いテーマで多様な聴衆に語りかけるライブラリーカフェに好適の試みであると考えられる。

以下に第2回で紹介された本の一覧を挙げる。これらは主に講師の読書歴の中で言及されたものである。JAXA 関連の資料は会場で提示されている。

平成30年度第2回で紹介された本

- ・『Rough』 あだち充, 小学館文庫
- ・『行かずに死ぬるか！世界9万5000km 自転車ひとり旅』 石田ゆうすけ, 幻冬舎
- ・『いちばん危険なトイレといちばんの星空：世界9万5000km 自転車ひとり旅 2』 石田ゆうすけ, 幻冬舎
- ・『ファイマンさんベストエッセイ』 R.P. ファインマン著, 大貫昌子・江沢洋訳, 岩波書店
- ・『貧困の克服：アジア発展の鍵は何か』 アマルティア・セン著, 大石りら訳, 集英社新書
- ・『タテ社会の人間関係』 中根千枝, 講談社現代新書
- ・『進化しすぎた脳：中高生と語る「大脳生理学」の最前線』 池谷裕二, 講談社ブルーバックス
- ・『競争しなくても世界一：フィンランドの教育』 福田誠治著, 国民教育文化総合研究所編, アドバンテージサーバー

2. 4. 3 読書コンクール表彰式 開催形態の改善

校内行事である校内読書コンクールの表彰式をライブラリーカフェと連続して実施する試みは前年度に始めたものであるが、今回は前年度の反省を踏まえて一部に改善を加えた。

本校は例年読書コンクールを実施しており、平成29年度は、表彰式をライブラリーカフェの終了後に、その会場で開催している。平成30年度は、前年度の日程はほぼ踏襲し、ライブラリーカフェ終了後の12時30分ごろから実施したが、会場は図書館2階に移動する形をとった。

表彰式をライブラリーカフェと別の会場で開催することは双方の行事に利点があった。ライブラリーカフェは、終了後の慌しさが解消され、参加者のアンケート記入時間を確保することができた。結果として、自由記述欄には多くのコメントがならんだ。一方、表彰式は、会場の事前設定が可能となり、多くの参列者が見守る中での円滑な開催につながった。



図3 読書コンクール表彰式

2. 4. 4 図書館企画との関連

ライブラリーカフェを図書館利用促進のための別の企画と関連させ、双方の活性化を図ることは開始年度から試みてきたが、そのいっそうの強化を図った。以下に2つの例を挙げる。

第一の例は、図書館ウェブサイトの活用である。実施前に学校や図書館のホームページにポスターを掲載し周知を行ってきたが、蔵書検索サイト（OPAC）におけるリスト表示機能の活用を追加した。蔵書検索サイトにライブラリーカフェや読書コンクールなど企画展示のコーナーを設け、紹介資料の一覧を確認できるようにしている。アクセスが学外からも常時可能である点は有益である^{注2)}。



図4 蔵書検索サイトにおける
ライブラリーカフェ資料の紹介

第二は図書館ポイントカード企画における利用促進の工夫である。平成30年12月から実施したこの企画では、図書やCDを借り期限を守って返却したり、図書紹介カードを作成したりすることによりポイントが得られ、ポイントを集めると記念品がもらえる。ライブラリーカフェで言及された本やCDは利用者の関心を引くよう付与ポイント数を2倍としている^{注3)}。企画の総括は終了後に行うが、ライブラリーカフェ関係資料は他のポイント2倍対象資料とともによく利用されており、貸出冊数、貸出人数とも前年度の同時期よりも良好に推移している。

2. 4. 4 学外周知活動の強化

学外への事前周知の活動はほぼ前年度どおりであり、学校や図書館のウェブサイトの利用、保護者会や保護者後援会におけるちらしと図書館だよりの配付、地元市の広報誌³⁾への記事の掲載を行っている。平成30年度は、本校の進路相談会における資料の配付を追加した。この行事は、本校が中学校の教員や生徒を対象として学内外で例年数回実施している。保護者や中学生のライブラリーカフェへの参加が増えていることを考えれば、この周知は継続していきたい。

実施後の報告は、関連資料の図書館特設コーナー

における紹介の継続、ライブラリーカフェの動画の館内視聴、図書館ウェブサイトや『仙台高専だより』⁴⁾での報告などをほぼ例年どおり行っている。これに追加して、動画の視聴を促すために、概要を紹介する印刷資料の提供を始めた。

3. 実施を振り返って

3. 1 継続実施可能性の向上

実施を振り返り、3年目を迎えて本行事は継続実施の可能性が見えてきたと言える。

経費は、校内で校長裁量経費の配分を申請し、ポスターの印刷や配付物の準備に充てているが、行事として定着してきたため、安定した配分を得ることが可能となっている。

運営についても、ほぼ例年の実施方法に則って進められる部分が大半となった。準備所要時間は前年度よりさらに短縮され、当日は担当可能な図書委員と職員による分担の形が整ってきた。

今後も安定して継続していくためには、学内外での認知度をいっそう上げ、内容を充実させていくことが効果的であると考えられることから、広報の時期や規模、興味深い企画について検討を加えていきたい。

3. 2 参加者アンケート結果

本年度の参加者対象アンケート^{注4)}の結果を以下に示す。各回の終了後に実施し、回収したのは48枚である。

参加者アンケート（第1回・第2回）

1) 所属について

本学学生（専攻科）	3
本学学生（本科生）	1
本学教職員	4
保護者、家族	21
保護者（卒業生）	1
一般	18

学内が8名、学外が40名であり、学外からの参加者が多い。学外のうち、学生の家族が22名、それ以外が18名であり、後者の内訳は中学生が3名、大学生が2名（うち本校の卒業生は1名）、一般が13名（うち本校の卒業生が4名）である。

第1回と第2回を比較すると、第1回は保護者が6割を占め、第2回は学外者（一般、卒業生、中学生）が半数を占めている。これは高専祭への来場者の傾向を反映していると考えられる。

2) ライブラリーカフェの内容について

とてもよかった	20
よかった	21
普通	3
あまりよくなかった	0
よくなかった	0
回答なし	4

「とてもよかった」と「よかった」の回答の合計は全体の85%を占めている。

3) 開催時期や場所について

時 期	早い 0, ちょうどよい 45, 遅い 0,
	回答なし 3
時間帯	早い 4, ちょうどよい 41, 遅い 0,
	回答なし 3
長 さ	短い 2, ちょうどよい 40, 長い 4,
	回答なし 2
場 所	狭い 1, ちょうどよい 44,
	回答なし 3

開催条件は、いずれも「よい」の回答が8割を超えている。

4) ライブラリーカフェ開催情報の入手先について

『広報なとり』10月1日号	9
仙台高専ホームページ	3
図書館ホームページ	3
ポスター	2
ちらし	16
ちらし（保護者後援会配付）	1
ちらし（保護者会配付）	11
知人・友人の紹介	4
今年の参加者への案内	0
先生から聞いて	1

高専祭の受付で高専祭パンフレットとともに配付されたちらしがいずれの回においても最大の情報源である。今年度は、保護者会において配付したちらしの効果が目立つようになった。保護者会における配付は2年目となり、浸透してきたと言える。また、今年度は『広報なとり』の割合が過去の回より高いことが注目される。今後はちらしの活用を図ると

もに、他の手段も並行して利用していきたい。

5) 今後のライブラリーカフェへの参加について

ぜひ参加したい	18
参加したい	23
どちらともいえない	5
あまり参加したくない	0
参加したくない	0
無回答	2

大半がまた参加したいと回答しており、この声を今後の継続実施につなげていきたい。

6) ライブラリーカフェで取り上げてほしいテーマについて

- ・ジャズのいろいろ良いです。
 - ・宇宙をテーマにしたもの（ブラックホール etc），JAZZ以外の音楽も（保護者）
 - ・ジャズ，建築，写真（一般）
 - ・宇宙ゴミについて（保護者）
- 表現は原文のままである。他にも多くの要望が寄せられた。ライブラリーカフェでとりあげられた内容をさらに深く知りたいという回答が多く、講師の語りが参加者の興味を喚起したことがわかる。

7) 意見と感想

自由記述のいくつかを原文のまま引用する。
(第1回)

- ・この様な先生方の趣味・特技を生かしたテーマで開催していただきたい。（保護者）
 - ・音楽を聴きながらの説明なので、よく理解できました。学校の先生なので分かりやすい説明でした。（一般）
 - ・世界が広がる気がしました。JAZZ ♪で楽しい時間をありがとうございました。（保護者）
 - ・曲を紹介頂いて興味深かったです。初心者向のCDを聞いたところから入ったので勉強になりました。（保護者）
 - ・色々な奏者を意識して聞いていきたいと思いました。ありがとうございました。（保護者）
 - ・知っている曲もあり、今回参加して良かったと思います。「聴きたい曲を聴きたいように聴く」このことばのおかげでJAZZに対するハードルが下がったように思います。（保護者）
- (第2回)
- ・野呂先生はおもしろい!!（保護者）
 - ・普通の子供がこのような立派な教授になれること

が分かり良かった。紹介された本を読んでみたくなりました。(保護者)

- ・ご紹介いただいた本はどれも興味深いものでした。ありがとうございました。(一般)
 - ・本日はありがとうございます。とても楽しく拝聴しました。(プレゼンの参考になりました。)卒業生として、若い柔軟な先生がいらっしゃることに大変うれしく思いました。(卒業生)
 - ・話を聞いたのは途中からだったけど、内容がおもしろく、ユーモアにあふれていて、ひまにならなかった。(中学生)
 - ・カフェ形式になっているといい(20分話、20分Discussion)(本学教職員)
- いずれの回も参加者から高い評価を得ている。参加者が知的刺激を得て、理解を深めたいと感じていることが伝わってくる回答が多く寄せられた。

4. 今後のあり方について

ライブラリーカフェが平成30年度も好評を得ることができたのは講師と講師の語りの魅力のおかげである。ライブラリーカフェは、毎回の講師によって新たな意味と可能性を与えられ続けてきた。次年度以降も継続して実施していくためには、講師が楽しく話せる環境の構築に努力し、参加者に喜んでもらえる話題の提供のため学内外の動向を注視するとともに、講師、学生、地元市民が対話をさらに楽しめる仕組みを工夫することなどが推進課題となる。学生の学びの支援を第一の目的としつつ、併せて本校が地域に支えられ育てていただいていることに感謝の思いを込め、地域の方々にも本校を楽しんでいただくきっかけを提供できるよう努めていきたい。

謝辞

平成30年度もライブラリーカフェの開催に際しては多くの方々のお力添えをいただきました。講師の佐藤一志先生と野呂秀太先生には興味深い講演により参加者を楽しませてくださいました。福村裕史校長先生をはじめ、次世代型教育推進室、学生課、学生会、高専祭実行委員会、名取市総務課の方々、ほか多くの方に多大なるご協力をいただきました。そして地域のみならず、本校教職員と学生のみならずにご参加いただきました。深く感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 岡崎久美子, 武田光博, 奥村真彦, 野角光治, 吉野裕貴, 宮崎義久, 谷垣美保, 山木幸一, 加藤文樹, 尾田陽子, 遊佐梨江. 仙台高専なとりライブラリーカフェの開催, 仙台高等専門学校名取キャンパス研究紀要, 第53号, pp. 17-22, 2017.
- 2) 岡崎久美子, 濱西伸治, 野角光治, 柳生穂高, 吉野裕貴, 荒孝二, 坂本香代, 佐々木敦子, 遊佐梨江. 仙台高専なとりライブラリーカフェの検討, 仙台高等専門学校名取キャンパス研究紀要, 第54号, pp. 10-17, 2018.
- 3) 名取市総務部総務課. 広報なとり, 2018年10月(No.1039), p. 35, 2018.
- 4) 仙台高等専門学校. 仙台高専だより, 第6号, p. 18, 2019.

注記

注1) 実際に流した曲目のリストは以下のとおりである。

- 1) Steps, Cecil Taylor
 - 2) Get Back, The Beatles
 - 3) Chappaqua Suite Part I, Ornette Coleman
 - 4) You'd Be So Nice to Come Home to, Helen Merrill & Clifford Brown
 - 5) It Don't Mean a Thing, Duke Ellington
 - 6) St. Louis Blues, Louis Armstrong
 - 7) Take The A Train, Duke Ellington
 - 8) Night in Tunisia, Charlie Parker
 - 9) Blue Monk, Thelonious Monk
 - 10) Dear Old Stockholm, Miles Davis
 - 11) Say It (Over And Over Again), John Coltrane
 - 12) Cleopatra's Dream, Bud Powell
 - 13) Round Midnight, Miles Davis (アルバムタイトルは 'Round About Midnight)
 - 14) So What (in Kind of Blue), Miles Davis
 - 15) So What (in Four & More), Miles Davis
 - 16) My Favorite Things (in My Favorite Things), John Coltrane
 - 17) My Favorite Things (in Coltrane At Newport), John Coltrane
 - 18) Maiden Voyage, Herbie Hancock
 - 19) Autumn Leaves, Cannonball Adderley
 - 20) Faces And Places, Ornette Coleman
 - 21) The Girl From Ipanema, Stan Getz & Joan Gilberto
 - 22) Come Rain or Come Shine, Bill Evans
- 以上は資料2として一覧を配付した。以下は質疑応答において即興(アドリブ)として流した。
- 23) I Say A Little Prayer, Rahsaan Roland Kirk

- 24) Serenade To a Cuckoo, Rahsaan Roland Kirk (アルバム
ムタイトルは I Talk With The Spirits)
- 25) Maiden Voyage, Bobby Hutcherson
- 26) If I Were A Bell, Miles Davis
- 27) Moanin', Art Blakey & the Jazz Messengers

注2) <https://libopac3-c.nagaokaut.ac.jp/opac/rmbook/?kscode=008&rmtype=4> (平成30年1月10日参照)
なお, 上記ページは蔵書検索サイト下部の「図書館サー
ビス」内にリンクがある。

注3) ポイント付与数を2倍としたのは, 以下の2種類
の利用形態である。1) 特に利用を薦めたい以下の特設
コーナーの資料の利用: ライブラリーカフェ特設コーナ
ー, 読書コンクール作品展コーナー (平成30年度分),
「科学道100冊」コーナー, 男女共同参画推進室おす
め本(「国立女性教育会館図書 特別展示/貸出」を含む)。
2) 図書館の本を読んで作成した「紹介カード」の提出。

注4) 資料 アンケート設問 (第1回用・第2回用)

平成30年度 仙台高専なとりライブラリーカフェ
アンケート

本日は仙台高専なとりライブラリーカフェにご参加下
さいまして誠にありがとうございました。今後の参考と
させていただきますので, 以下のアンケートにご協力を
お願いいたします。

1) ご所属について

- 本学学生 (学年・クラス:)
- 本学教職員 (学科・コース:)
- 学外 (保護者・一般・卒業生・大学生・
高校生・中学生・その他)

2) カフェの内容はいかがでしたか?

- とてもよかった
- よかった
- 普通
- あまりよくなかった
- よくなかった

3) 開催時期や場所はいかがでしたか?

- 時期 早い ちょうどよい 遅い
- 時間帯 早い ちょうどよい 遅い
- 長さ 短い ちょうどよい 長い
- 場所 狭い ちょうどよい

4) 今回のライブラリーカフェを何でお知りになりましたか?

- 広報なとり10/1号
- 仙台高専ホームページ
- 図書館ホームページ
- チラシ (高専祭受付・入試説明会・保護者懇談会・
後援会役員会)
- ポスター (学内・名取市内: ・仙台市内:)
- 知人・友人の紹介
- 昨年の参加者への案内 その他 ()

5) 今後もライブラリーカフェが開催された場合, 参加し
たいと思いますか?

- ぜひ参加したい
- 参加したい
- どちらともいえない
- あまり参加したくない
- 参加したくない

※次回ライブラリーカフェが開催された場合, 案内を
ご希望の方はご氏名・ご住所をお書き下さい。記入さ
れた個人情報は厳重に管理し, 目的外に使用いたしま
せん。

氏名: 住所:

6) 今後, ライブラリーカフェで取り上げてほしいテーマ
がありましたらお書き下さい。

7) ご意見や感想がありましたら, ご自由にお書き下さ
い。

※アンケートの結果は個人が特定されないよう, 集計され
た形で公表することがあります。